

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

| | | | |
|--------|--|----|------|
| 代表者氏名 | 矢島潤平 | 所属 | 別府大学 |
| 研究会等名称 | 支援者支援研究会 | | |
| 成果概要 | <p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 9名 (うち認定心理士 1名) 非会員 28名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>本年度は、災害発生時の被災者及び支援者 (行政職員, 心理カウンセラー) に対する心理的支援法をテーマとしての講習会 (大分県臨床心理士会及び大分県公認心理師協会との共催) を開催した。本研究会では、これまで講義形式のみで実施していたが、今回は演習として模擬訓練を多めに入れて、より実践力を身につけることを目的とした。</p> <p>日時: 2023年10月29日 (日) 10時~16時 会場: 大分県消費者男女共同参画プラザ『アイネス』にて実施したプログラム</p> <p>「心理臨床の現場でイメージをどのように利用するか」 司会: 加藤真希子 (支援者支援研究会: 会員, 大分県公認心理師協会: 副会長) 講師: 矢島潤平先生 (別府大学文学部, 教授) 「大分県の災害対応」 講師: 野村れいか (九州大学大学院人間環境学府, 講師) 「災害支援における心理職の役割~事前の体制づくりからフォローアップまで~」</p> <p>実施内容: 本研究会は2部構成で実施した。はじめに、大分県の災害対応について、矢島が概説を行った。大分県では、本年度から災害拠点精神科病院が指定されたこと、大規模地震時医療活動訓練が実施されたこと、大分県 DPAT 委員会及び大分県 CRT 委員会が開催され活動内容を周知したこと及び大分県公認心理師協会と大分県臨床心理士会が担当した九州北部豪雨災害や熊本・大分地震での活動内容を報告し、当時の支援活動を思い出してもらった。</p> <p>次に、災害支援における心理職の役割について、野村が担当した。最初に災害に関しての基本的な支援方法について熊本・大分地震における講師の活動状況を写真等にて紹介して、具体的にイメージしてもらった。更に、covid-19 状況下での活動のポイントについても解説し理解を深めることができた。次に「マグニチュード6.5の自身が発生して震度6強の揺れがありました」と想定して、個人ワークとグループワークを行った。個人的にどのような行動ができるのか、支援を行うために準備は、人道支援の原則は、被災による時間経過による心理変化を捉える、メンタルヘルス上の問題などについて、一つ一つ丁寧に話し合いを交えながら考え、全体発表を行いシェアリングした。また、心理的応急処置など基礎知識を復習するとともに、平時でおこなう対策などについて、個人及び組織として何ができるかについて議論を行った。講師2名共に災害対応の経験があるため、具体的かつ緊迫感をもって体験することができ、参加者の満足度の高い講習会であった。</p> | | |

(様式5)

2024年4月27日

日本心理学会研究会2023年度会計報告書

研究会名称 支援者支援研究会

研究会番号 23013

助成金額 ￥30,000

| 年月日 | 項目 | 金額 |
|-------------|---------------------------|---------|
| 2022年10月16日 | 会場費の一部（大分県消費生活・男女共同参画プラザ） | ￥30,000 |

支出合計 ￥30,000